

# 視点

## 福島県立医科大学の今 — 県医師会との連携を見据えて —



福島県医師会常任理事

大平 弘 正

福島県立医科大学は、東日本大震災後、国内外から多くの方々が集結し職員も1.5倍を  
超す人数となり、ふくしま国際医療科学セン  
ターをはじめ、施設・組織が急速に変化して  
きております。県医師会では、これまでも多  
くの分野で福島医大と連携をしてきておりま  
すが、震災後の福島医大の組織変革に、会員  
の方々が必ずしも十分な把握ができずにおら  
れるとの経緯から、新たに設立されたふくし  
ま国際医療科学センター、新専門医制度に対  
応した内科・外科部門の講座再編、寄附講座、  
主な新センターについて紹介したいと思います。

なお、福島医科大学組織の概要図は  
[https://www.fmu.ac.jp/univ/houjin/pdf/soshiki/soshikikikou\\_2904\\_3.pdf](https://www.fmu.ac.jp/univ/houjin/pdf/soshiki/soshikikikou_2904_3.pdf)を参照頂ければ幸いです。

### 1. ふくしま国際医療科学センター

ふくしま国際医療科学センター（谷川攻一  
センター長）は、福島県の再生・復興の医療  
拠点として平成24年11月に設立され、昨年末

にふくしまのちと未来のメディカルセン  
ター棟が完成し、5センター（放射線医学県  
民健康管理センター、先端臨床研究セン  
ター、医療一産業TRセンター、甲状腺・内  
分泌センター、健康増進センター）と2部門  
（先端診療部門、教育・人材育成部門）に整  
備されました。教育・人材育成部門では、長  
崎大学との共同大学院や県民健康管理セン  
ターが行う県民健康管理調査、先端診療部門  
が行う早期治療、先端臨床研究センターが行  
う早期診断に必要となる人材の教育・育成を  
担う組織であり、放射線健康管理学講座（大  
津留晶教授）、災害こころの医学講座（前田  
正治教授）、甲状腺内分泌学講座（鈴木眞一  
教授）、放射線災害医療学講座（長谷川有史  
教授）、疫学講座（大平哲也教授）、健康リス  
クコミュニケーション学講座（村上道夫准教  
授）、放射線生命科学講座（坂井晃教授）、放  
射線物理化学講座（石川徹夫教授）、放射線  
腫瘍学講座（鈴木義行教授）、腫瘍内科学講  
座（佐治重衡教授）の10講座が設置されてい

ます。本センターの使命は 1) 県民に寄り添い、健康を見守り、将来にわたり安全・安心を確保する 2) 医療関連産業の創出・発展により、新たな雇用を創出し、地域社会を復興・活性化させる 3) 福島の復興から得られた教訓と英知で日本さらには世界に貢献することであり、今後も長期間にわたり事業が推進されて行くこととなります。

また、甲状腺・内分泌センター（横谷 進センター長）では、甲状腺・内分泌疾患の総合窓口となり最適な診断・医療の提供を図り、県の委託事業として本年度から本格稼働となった健康増進センター（大平哲也センター長）では、県民の健康長寿達成のため予防・健康増進のシンクタンクの役割を担うとともに、県との連携で公衆衛生医師の継続的確保と育成支援のため地域医療・社会医学専攻医師養成コースが準備されています。地域での健康増進の実践には医師会との連携は重要と考えます。

## 2. 新専門医制度に対応した講座再編

新専門医制度に対応した内科・外科部門の講座再編については、基本領域とサブスペシャリティ領域に対応できるように、内科部門では神経内科学講座、呼吸器内科学講座に加えて新たに診療科として基本領域を担う総合内科の新設と循環器内科学講座、血液内科学講座、消化器内科学講座、リウマチ膠原病内科学講座、腎臓高血圧内科学講座、糖尿病内分泌代謝内科学講座に再編されました。一方、外科部門では心臓血管外科学講座に加えて新たに基本領域を担う外科研修支援部門の新設と消化管外科学講座、肝胆膵・移植外科学講座、呼吸器外科学講座、乳腺外科学講座、診療科として小児外科に再編されています。すべての講座診療科において新教授も就任し、来年度からの新専門医制度開始へ向け体制が整備されています。

## 3. 寄附講座

寄附講座は、企業等からの奨学寄附金により講座を設置し、福島医大の主体性のもとに教育・研究活動を行うものです。平成29年4月現在、24の寄附講座を設置しており、それぞれの分野で特色ある研究活動を展開しています（ホームページ参照：[https://www.fmu.ac.jp/univ/sangaku/kifu\\_koza\\_list.html](https://www.fmu.ac.jp/univ/sangaku/kifu_koza_list.html)）。先進的な研究はもちろん、医師会と密に関連する講座もあります。例えば、福島市が寄附者となっている地域救急医療支援講座では福島市内の医療機関と連携し、救急医療に関する研究に加え1次から3次救急の系統的な教育・研修プログラムの構築を目指しています。また、須賀川市の寄附による周産期・小児地域医療支援講座では、須賀川地方の医療支援と同地区の臨床データの集積および解析を実施しています。

## 4. 新センター

新設されたセンターのうち、医師会との連携がより深いものとしてふたば救急総合医療支援センター、ふくしま子ども・女性医療支援センターが挙げられます。ふたば救急総合医療支援センター（谷川攻一センター長）は、双葉地域における2次救急の確保および広域的な総合医療支援を目的に福島医大付属病院に2016年4月に設置されました。救急グループと在宅訪問グループ（総合診療グループ）から構成され、特に救急グループは双葉地方消防本部檜葉分署に駐在し平日救急対応を実施してきており、昨年10月からは日祝日の救急診療についても「ふたば復興診療所リカレ」を拠点として対応しています。なお、来年には新病院が富岡町に開設予定となっております。

ふくしま子ども・女性医療支援センター（水沼英樹センター長）は、「ふくしまの女性が安心して子どもを産み、育み、そして健康な

一生を過ごせるための医療支援を行うこと」をコンセプトに昨年4月に開設されました。小児科・産科婦人科との協力体制のもと、小児集中治療室（P I C U）の開設、発達障害児支援体制の構築、不妊外来・遺伝外来の支援など県外からの医師招聘・人材育成、臨床・教育支援を実践しております。

このように福島医大では震災後、大きく組織体制が変化しておりますが、県医師会としても福島医大の状況を把握しつつ、より連携を深めながら県民の健康増進と地域医療の充実のために活動していくことが求められているように感じております。

